

ハツ場ダム止まる

すっかり有名になってしまったハツ場ダム。政権交代を受け、無駄な公共事業としていち早く取り上げられました。計画から半世紀余りが経過し、治水、利水の両面でその効果、必要性がなくなり、人口減少、水あまりの現状に全くそぐわない事業です。

9月議会には、「ハツ場ダムの早期完成を求める意見書」「ハツ場ダム中止と生活再建を求める意見書」の真っ向対立する意見書が提出され、残念ながら過半数を占める自民党の数の力でダム推進派の早期完成を求める意見書が採択されてしまいました。

しかし、これからも県議会の中で、ハツ場ダムがいかに税金のムダ使いであるか、特に「ハツ場ダムは必要」と言う森田知事を追及をしていきます。



晩秋のハツ場ダム予定地 吾妻溪谷にて

ハツ場ダムの底に自然がつくり出したこの美しい吾妻溪谷を沈めてしまってもよいのだろうか。私が訪れた日、吾妻溪谷は紅葉の真っ盛り、「すばらしい」の一言です。多くの観光客が訪れていました。ダム本体工事に手がつけられていない今なら、この自然を残すことができます。次の世代、そしてその次の世代へと。

本当はどうなのか

■ダムをやめたほうがつくるより高いのか？

●ダムを中止した場合

これまでに使った事業費	3210 億円
生活再建関連	770 億円
合計	3980 億円

●ダム建設を続けた場合

これまでに使った事業費	3210 億円
残り事業費	1390 億円
地すべり対策 東電への補償	1000 億円
合計	5600 億円

だから、ダムをやめたほうが安い

■「7割も出来ている」と言うけれど

建設事業費 4600 億円の 7割の事業費を使ったという意味です。

工事の進捗率 (2008 年度末)

付け替え国道	6%
付け替え県道	2%
付け替え鉄道	75%
代替地の造成	10%
新駅舎の用地取得	20%
もちろんダム本体は	0%

だから、今ならとめられる！

千葉県総合計画(案)が発表されました。10年の基本構想、3カ年の実施計画の二部構成。今年8月に「千葉県総合計画策定懇談会」を立ち上げ、来年の2月県議会の議決を経て成立させようとしています。わずか半年で県政全般に係る最上位の基本的かつ総合的な計画をつくらうとしますが、県民の声を聞く余地など全くありません。県職員や学識経験者だけでつくろうとしています。パブリックコメントやアンケートを実施するとしています。タウニングもなく、策定経過での積極的県民参加の形は見られません。これでは、県民不参加、県民置き去り、県民と共につくらうという姿勢の欠如は、森田知事の政治姿勢そのものです。

**なぜ早く
県民不参加
千葉県総合計画**

■千葉県教育を元気にする有識者会議
千葉県の教育を元気にする有識者会議の人は森田知事好みの人が多く、会議を傍聴していて、これは戦前の道徳教育と愛国心回帰へ向かっていると強く感じました。タレントの藤岡弘氏の得意とする言葉は「武士道」。

■行政改革推進委員会
週一回という猛烈な委員会です。かずさアカデミアパークについては非公開とされてしまいました。納得できません。人員削減、安易な民営化は、県民サービスを低下させるものです。



9月補正予算に反対

■ふえ続ける県債残高

9月補正予算においてさらに県債発行がなされ、今年度末には2兆4751億円にも達する見込みです。9月補正後の一般会計は1兆6226億5828万円ですから、県債が一般会計の1.5倍強という有様。いかに県債(借金)が増え続けているか、森田知事の県財政への危機意識が問われています。

■県の雇用対策 本当に役立つのか疑問

今日の厳しい雇用状況は、県民生活に大きな不安をもたらしています。9月補正においても緊急雇用創出事業(6ヶ月未満の雇用)、ふるさと雇用再生特別基金事業(一年以上の雇用)がさらに増額され予算化されました。中には雇用期間が1ヶ月に満たない「焼け石に水」のような事業もあります。苦しい生活、日々の不安の解消にもならず、まして安定した雇用へのつなぎともなりえない事業が多く、本気で県民の雇用不安、生活不安をなくす政策にはなっていないと思います。

傍聴記
重要な会議が色々行われていきますので、傍聴することも大事です